



Vol.42

机の上の小さな変革



価値観の確認

今回は、自宅や職場にある本棚を使って、その人なりの意味の基準や尺度について考えてみたいと思います。

さっそくですが、本棚（あまりにたくさんの本を所有している人は、1段分だったり範囲を絞ってもらっても構いません。私も自分でやるときはかなり絞りました）に並んでいる本を、本の高さが大きいものから順番に並べ替えてみてください。

いかがですか？ 普段見慣れている本棚も、同じ高さの本が結構揃っていたり、実はかなり大きさに差があるものが混ざっていたりすることに、気づくのではないかと思います。

それでは次に、背表紙の色が暗い色からだんだん明るい色になるように順番に並べ替えてみてください。いかがでしょうか。こうして見ると、様々な色の本が並んでいたことや、実は同じような色味の本が多いことが、はじめて意識されるのではないかと思います。

もう少しだけお付き合いください。では次は、本の厚さ順に並べ替えてみてください。いかがでしょう。先ほどは高さの順に並べてもらいましたが、おそらくそれとはまた別の順番になると思います。当たり前のことですが、本の高さと厚さではまったく関係ない順番になることがわかります。

ここまでは、見た目でわかる要素で並べ替えてもらいましたが、次は価格順に並べてみるといかがでしょうか。

私たちは大きかったり重かったりするものに価値を感じがちですが、必ずしもそのようなことに関係して値付けがされているわけではないことが明らかになるのではないかと思います。

では最後に、本棚をあなたの好みや気になる順番に並べ替えてみてください。いかがですか？ 先ほどまでの何らかの明確な基準があるなかで並べ替えていたときとは異なり、自分なりの評価軸をつくらなければいけないので、とても大変だと思います。しかし一方で、この作業はかなり楽しい試みだったのではないのでしょうか。

並べ替えからあぶり出されるもの

世の中をある視点で見ようとするときは、一般的には大きさや価格など、明確に比較できる要素を重要視して基準としています。

しかし、新しい物事を起こそうとするときには、自分自身がモチベーションを持って進めていくために、まずは自分が対象をどう解釈しているのかという感性や価値観の部分が重要になります。

今回のように本を並べ替えるだけでも、自分の好みや興味が少し自覚できたのではないのでしょうか。日常のなかにある1つひとつの行動のなかにも、自分の好奇心をあぶり出すためのヒントがあふれているのです。 ▲

PROFILE 菅 俊一 (SYUNICHI SUGE)

コグニティブ・デザイナー。表現研究者。映像作家。多摩美術大学美術学部統合デザイン学科准教授。1980年東京都生まれ。人間の知覚能力に基づく新しい表現を研究・開発し、様々なメディアを用いて社会に提案している。主な仕事・著書に、NHK Eテレ『2355/0655』、『観察の練習』『ヘンデコノミクス』など。